SUMIDA
INNOVATION
CORE



SUMIDA INNOVATION CORE 共創の軌跡

2026



SUMIDA INNOVATION CORE
共創の軌跡 2026

INDEX

SUMIDA INNOVATION CORE（SIC）とは —— 1

共創の実現に向けた SICの提供価値 —— 3

共創を生む支援プログラム —— 5

主要な提供機能・プログラム —— 7

活動実績・成果 —— 11

共創プロジェクト 32 —— 13

共創ストーリー —— 21

コラム 東京商工会議所墨田支部×SIC・共創の軌跡 —— 27

SUMIDA INNOVATION CORE（SIC）とは

コンセプト

想いと技術で つぎの未来を共創する場

ものづくりは、困難の連続だ。
ひとつの成功の前には、たくさんの挫折と失敗が待っている。

けれど、私たちは知っている。
あなたには諦められない夢があることを。

私たちは信じている。
あなたが生み出す「モノ」が暮らしに感動と変化を与え、
新しい景色をつくってくれることを。

だから、まずは一緒にやってみませんか。

無限の可能性を秘めるこのすみだには、
あなたの想いをカタチにしてくれる様々な職人の技術と
近くであなたを支えてくれる人情あふれる仲間がいます。

伝統と革新が共存するまち、すみだから
人と技術と創造力で未来を拓く
新しい「モノづくり」を実現していく。

さあ、私たちと
つぎの未来を共創しましょう。

ロゴマークとストーリー

SUMIDA
INNOVATION
CORE

モノづくりの道具や素材をモチーフにした、直線、曲線などの多様な形状のイニシャル「S」「I」「C」で組まれたロゴマーク。多様な「想い」「アイデア」「技術」が、ここ「SUMIDA INNOVATION CORE」に集まり、融合することで、新たな「モノづくり」が生まれていく様を表現しています。

SICの設置目的

「産業集積のアップデート」実現に向けて

墨田区は、職住近接を特徴とする「ものづくりのまち」として発展してきました。現在も多種多様な製造業が集積する地域ですが、事業承継や労働力不足、不安定な国際情勢などにより、区内事業者を取り巻く経済環境は厳しさを増しています。AIをはじめとする技術革新など、歴史的な構造変化の中で、持続可能な産業基盤を再構築していく必要があります。

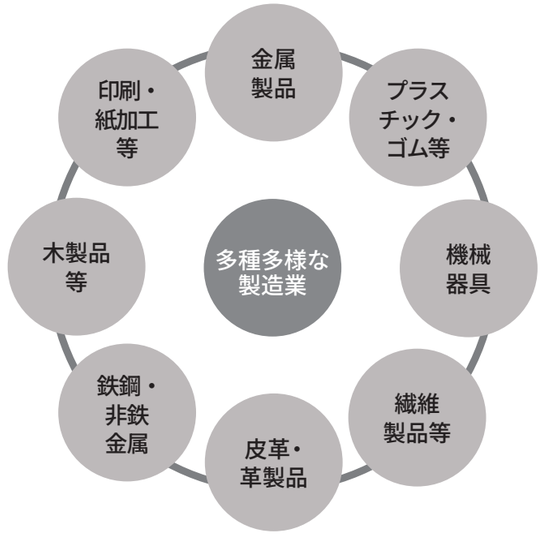
区では「ものづくりのまち」を未来へ継承し、区民生活や地域力の向上につなげていくため、「産業集積のアップデート」に取り組んでいます。「産業集積のアップデート」とは、これまでの製造業を中心とした集積を、ものづくりを起点とした幅広い業種による新たな産業集積の形にしていくものです。

SICは、歴史の中で培われた町工場の技術など、すみだの産業の強みを生かして、スタートアップと区内事業者等との共創を通じて新たな産業を生み出す「産業共創施設」です。

共創により区内事業者の成長を支援することで、「ものづくりのまち」としての個性を更に磨き上げ、持続可能な産業基盤の再構築を図っていきます。

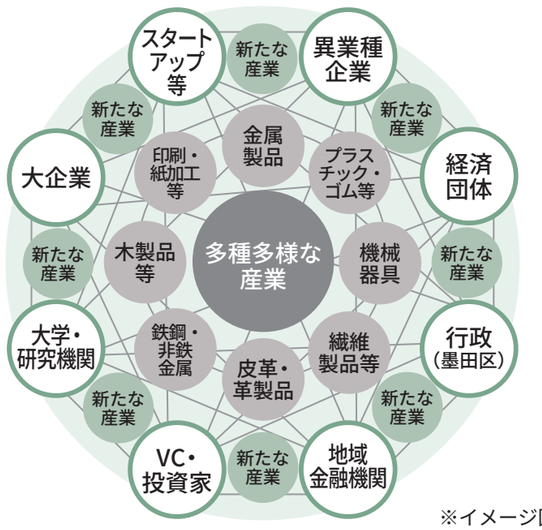
これまでの姿

多種多様な製造業を中心とした集積



目指すべき姿

ものづくりを起点とした幅広い業種による集積

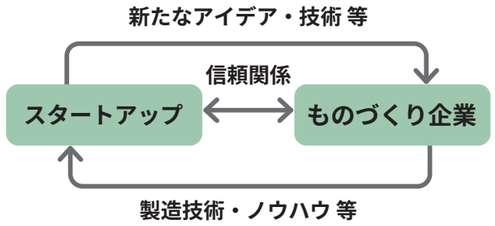


※イメージ図

共創の実現に向けたSICの提供価値

共創とは

SICにおける共創とは「信頼関係を築いたうえで、お互いの強みやアイデアを活用して、新たな価値を生み出すこと」を意味しています。スタートアップとものづくり企業では、価値観・文化・言語・ビジネスモデル等が大きく異なります。そのため、SICでは相互理解と信頼関係の構築を共創の第一歩として大切にしています。



共創のパターン

SICは、スタートアップを支援し、区内事業者や大学等との共創を通じて新たな産業を創出する役割を担っています。共創を通じて、ものづくり企業の付加価値向上、区内産業の基盤強化、区民生活への還元等に寄与する効果が生まれています。

新製品開発等を通じた
ものづくり企業の付加価値向上

ものづくりの技術を新たな分野に転用して、
スタートアップと製品開発に取り組む

▶共創の詳細は P.13 共創プロジェクト32 No.1
P.21 共創ストーリー参照

区内ものづくり企業の技術を活用したニュースポーツ製品の開発・社会実装

DX等を通じた
区内産業の基盤強化

スタートアップの新たなアイデア・技術等を活用して、
社内経営改革や新規事業の創発に取り組む

▶共創の詳細は P.16 共創プロジェクト32 No.13参照


スタートアップ×地域金融機関×区内ものづくり企業の
共創による中小企業のDX推進

社会課題解決を通じた
区民生活への還元

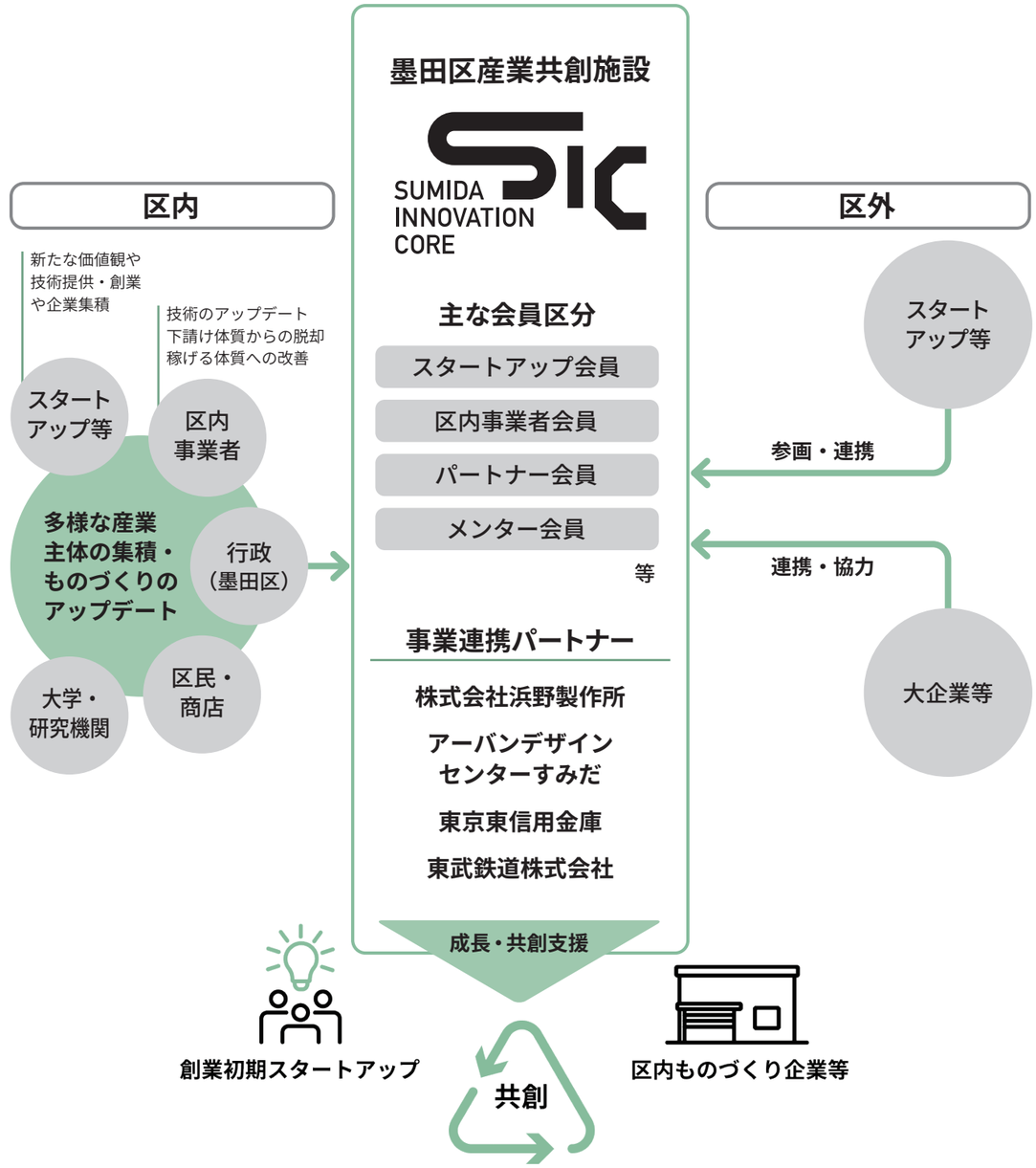
スタートアップと区内企業等の共創を通じて、
区民の生活向上等につながる地域課題解決に取り組む

▶共創の詳細は P.18 共創プロジェクト32 No.21
P.24 共創ストーリー参照


認知症の予兆検出サービス開発・精度向上による高齢者福祉の充実

共創のプラットフォーム

SICは「価値共創・交流・発信」拠点として、スタートアップ等の新たな担い手を迎え入れ、区内事業者や大学等との共創を通じて、新たな産業を創出する役割を担うプラットフォームです。「ものづくりのまち」として発展する中で培われた地域のネットワークや、「プロトタイプ開発」を強みとする製造業の集積など、すみだならではの価値を提供します。共創の成果を広く発信することによって、さらにスタートアップ等がすみだへ集まり、区内事業者等と新たな価値を共創していきます。



共創を生む支援プログラム

SICでは共創の実現に向けて、「準備・計画・実行・展開（認知拡大・事業加速）」の
４つのステップと、年間通じて「開発改良の契機」となる機会を設け、一気通貫した
支援プログラムを提供しています。各プログラムはスタートアップに加えて、
区内ものづくり企業向けにも提供しており、スタートアップを軸とした共創だけでなく
区内ものづくり企業自らが共創の主体となるケースが増えています。

準備 → 計画 → 実行 → 展開 → 認知拡大・事業加速

準備：ものづくり習熟度向上プログラム
共創意欲の喚起

計画：SPARK（SUMIDA PROTOTYPE ACCELERATION KIT）
共創プラン作成・共創パートナー獲得

実行：Prototype（SUMIDA PROTOTYPE CITY）
実証実験を通じた有効性の確認

展開：プロトタイプ社会実装
共創プランの事業化・社会実装

ものづくり習熟度向上プログラム

共創に向けた第一歩を踏み出すための「共創に関する講義」「共創経験者のパネルディスカッション」「現場勉強会」「共創プラン発表会」等の連続プログラム



株式会社ぶんぶく 竹内 一江 氏
株式会社SakuraRide 米内 義晴 氏

板金・溶接・組立・塗装まで行う区内ものづくり企業・ぶんぶくは、ものづくり習熟度向上プログラムでスタートアップとの共創への向き合い方を学びました。現在は、フォールディングバイクのシェアリングサービスを提供するSakuraRideと車体格納用IoTロッカーを共同開発し、事業検証を進めています。

▶共創の詳細は
P.13 共創プロジェクト32 No.2参照

アクセラレーションプログラム「SPARK」

スタートアップと区内ものづくり企業を対象とした「共創プラン」「共創パートナー」を獲得できる約半年間の伴走支援型アクセラレーションプログラム



バキュームモールド工業株式会社
枝松 和也 氏

真空成形用金型のパイオニアであるバキュームモールド工業は自社の新規事業開発に向け、区内ものづくり企業として自らSPARKに応募。SICのメンターと練り上げたものづくり企業×スタートアップによる教育事業の共創プランはプロトタイプ実証実験支援事業に採択され、事業検証を進めています。

▶共創の詳細は
P.17 共創プロジェクト32 No.18
P.23 共創ストーリー参照

プロトタイプ実証実験支援事業

社会課題解決と新産業の創出を図る実証実験機会の提供。地域ネットワークへのつなぎこみ、密な伴走支援、実証実験支援金の拠出等による支援を実施



株式会社UMIAILE
墨田区都市整備課

水上を高速自律航行し海洋情報を収集する小型無人ボート（ASV）を開発するスタートアップ・UMIAILEは、区の河川・船着場を管理する都市整備課と北十間川で実証実験を実施。河川地形図作成などASVによる課題解決に向けた可能性を確認。現在は、河川のゴミ回収、臭気調査等の河川管理における各課題を解決する実証実験に取り組んでいます。

▶共創の詳細は
P.19 共創プロジェクト32 No.25
P.25 共創ストーリー
P.27 コラム参照

プロトタイプ社会実装支援

最大2年間のプロトタイプ実証実験支援事業における実証完了後、有効性を検証したプロダクトの社会実装に向けた事業戦略・販路開拓の伴走支援を実施



株式会社BAKUAGE
ナガセケンコー株式会社

BAKUAGEとナガセケンコーは、プロトタイプ実証実験支援事業にてピックルボールコートマットを共同開発。さらにプロトタイプ社会実装支援にて、販売戦略策定から販路開拓までの伴走支援を受け、販売実績を獲得。新製品開発のビジネス化・社会実装まで実現するに至った。現在は、さらなる販路拡大・事業展開を進めています。

▶共創の詳細は
P.13 共創プロジェクト32 No.1
P.21 共創ストーリー参照

SICアワード

特に優れた共創の取組を表彰するアワード。表彰企業は「モデルケース」として、大規模展示会等における共同出展等の取組の加速に資する支援を実施



有限会社東屋 木戸 麻貴 氏
appcycle株式会社 藤巻 圭 氏

創業100年を超える区内ものづくり企業・東屋と青森発スタートアップ・appcycleで取り組む共創事例は、「SICアワード2025」で最優秀賞を受賞。墨田区長への表敬訪問やアジア最大級のイノベーションカンファレンス「SusHi Tech Tokyo 2026」の登壇・出展を通じて、認知拡大・新たな事業機会を獲得しました。

▶共創の詳細は
P.15 共創プロジェクト32 No.9
P.22 共創ストーリー参照

開発・改良

ものづくり意見交換会

スタートアップが試作品を持参のうえ開発改良のニーズを発表し、複数社の区内ものづくり企業と意見交換を行うイベント（年数回開催）。本機会をきっかけとして共創を始動する開発改良の契機となる機会を提供



株式会社カミカグ 和田 亮佑 氏
株式会社間中木工所 間中 治行 氏
有限会社松原工業所 松原 拓哉 氏

「美しい、強い、軽い」を追求したダンボール製デザイン家具を製造しているカミカグは「ものづくり意見交換会」を通じて、複数の区内ものづくり企業と製造方法改良の意見交換を実施。特注・オーダー家具製造を強みする間中木工所、ねじの卸や切断加工を得意とする松原工業所との共創を進めています。

▶共創の詳細は
P.15 共創プロジェクト32
No.11参照

主要な提供機能・プログラム

スタートアップ集積機能

共創を目指すスタートアップや区内ものづくり企業、共創を支援する
プレーヤーが集い、活発な交流が行われる環境を提供しています。

スタートアップ支援機能

専門家相談支援・アクセラレーションプログラム等を通じて、
スタートアップと区内ものづくり企業との共創の創出を提供する機能です。

コミュニティ形成・情報発信機能

コミュニティ・マネージャや交流事業を通じて、共創を目指す
“すみだらしい” 地域に開かれたコミュニティを形成します。

SICの提供機能

スタートアップ集積機能	スタートアップ支援機能	コミュニティ形成・情報発信機能
共創を志すスタートアップの集積	共創や事業成長を促進するプログラムの提供	スタートアップと区内事業者等の交流を促進

成長・共創支援

共創創出を通じた区内事業者支援機能

創業初期スタートアップ ⇄ 共創 ⇄ 区内ものづくり企業等

会員の声

スタートアップ集積機能



写真左：キップス株式会社 田中 康雄 氏
写真右：株式会社小倉メリヤス製造所 小倉 大典 氏

墨田区・日本の縫製業の発展に向けて SICの区内事業者支援を活用

小倉メリヤス製造所とキップスは、共に創業100年前後の墨田区の老舗縫製企業です。SICが開催する共創プログラムへの参加・登壇、SICと業界団体・東京ニットファッション工業組合のおつなぎ、SICを通じたスタートアップや区内大企業との共創などに取り組んでおり、日本の縫製業の発展に取り組む中で、SICの区内事業者支援機能も活用いただいています。

作業・展示・交流スペースの活用で 制作現場・サテライトビジネスの場に

墨田区に立地するスタートアップ・うちゅうは、宇宙分野で活躍する人材育成に取り組んでいます。SICの作業スペース・展示スペース・交流スペースをフルに利用し、自社オフィスの限られた空間では難しいプロダクト制作・展示・サテライト商談の場として活用しています。商談の場によって、SICの支援を通じて開発した教育コンテンツを全国に水平展開しています。



墨田区発のスタートアップ
株式会社うちゅう



ものづくりのまち墨田区で生まれた
クリエイターのネットワーク
「すみだクリエイターズクラブ」

「ものづくりのまち すみだ」発の クリエイター集団の情報発信の場に

“まちの課題にクリエイターの力を。” を掲げて活動する「すみだクリエイターズクラブ」は、SIC開設当初から小上がり和室の空間を利用してLIVE配信番組「クリラジ」や月例ミーティングを20回以上にわたり開催しています。SICをリアルの活動・情報発信の場として活用することで同クラブの活性化につなげるとともに、交流・共創の場であるSICのにぎわいも生み出されています。

会員の声

スタートアップ支援機能



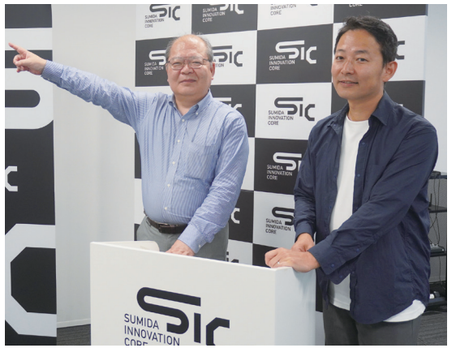
写真左：東商ゴム工業株式会社 末永 大介 氏
写真右：株式会社モーンガータ 百済 貴子 氏

ピッチイベントを通じて自社製ゴム×アップサイクル色材の共創を実現

「ゴムのコンサルタント」を掲げる東商ゴム工業は、SICの各プログラムに積極的に参加・情報収集をしています。ピッチイベントSIPに登壇した廃棄コスメのアップサイクルに取り組むスタートアップ・モーンガータの色材と、自社で開発しているオリジナルゴム・ゴム製防災笛との親和性を見出し、スタートアップ相談員の支援を受けながら共創に取り組み、同製品のカラーバリエーション展開を実現しました。

地域密着の信用金庫と地域課題解決へ投資するVC・CVCで資金調達を支援

墨田区に本店を置く東京東信用金庫は、SICの事業連携パートナーとして、会員向け相談や各金融機関・VC・CVCと連携した金融セミナー等に取り組んでいます。また、地域課題に取り組むシード期スタートアップに出資するVC・地域と人と未来はSIC主催の投資家ピッチ会に登壇いただいており、地場の金融機関・VCの皆様と連携して資金調達支援に取り組んでいます。



写真左：東京東信用金庫 小泉 伸洋 氏
写真右：地域と人と未来株式会社 松渕 祐也 氏



写真左から：株式会社石井精工 石井 洋平 氏
株式会社m-Lab 村上 進也 氏／株式会社間中木工所 間中 治行 氏／バキュームモールド工業株式会社 枝松 和也 氏／株式会社片岡屏風店 片岡 孝斗 氏

ものづくり業界への知識ゼロからSPARKを通じて数多くの共創パートナー獲得へ

ブラウザで動かせる世界一軽量なメタバースを開発・提供するスタートアップ・m-Labは、製造業との関わりがない状態で、ものづくり企業との共創に挑戦しました。SPARKでは、区内ものづくり企業との面談を数多く経験したことで、製造業の課題に迫るとともに、各社から共感を得て複数の共創パートナーの獲得まで至りました。現在は、プロトタイプ実証実験支援事業の採択を受けて共創の取組を進めています。

会員の声

コミュニティ形成・情報発信機能



写真後方：株式会社INS 本橋 壮太 氏
写真左：株式会社ステージアップ 有薗 悦克 氏
写真中央：有限会社サトウ化成 佐藤 憲司 氏
写真右：株式会社東北紙業社 加藤 清隆 氏

スタートアップ×区内ものづくり企業の垣根を越えたeスポーツコミュニティ発足

墨田区初のホームタウンeスポーツチーム「INSOMNIA」を運営するINSは、有志のSIC会員・区内ものづくり企業とコミュニティ・マネージャと共に、SIC会員向けコミュニティ「eスポーツ部」を発足。
「ゲーム」をきっかけに企業や世代の垣根を越える大人の部活動としての交流活動とともに、eスポーツ×ものづくりによる新製品開発等の共創も進めています。

日々の来館や交流機会を通じて区内事業者が出会い・つながる場に

SICでは、年間100回を超える多様な交流事業を開催しています。墨田区内のものづくりや商業の経営者・中堅社員・若手社員の皆様が参加し、業種や立場の異なる会員同士の新たな関係が生まれています。また、参加者という立場を越えて、トークセッションのスピーカーやDJとして登壇する等、区内事業者自らが顔となり、情報発信する機会も増えています。



写真左：タグ・エー合同会社 多賀 健太郎 氏
写真中央：望月印刷株式会社 赤松 敏 氏
写真右：株式会社片岡屏風店 片岡 孝斗 氏



写真左：墨東化成工業株式会社 髙山 幸一 氏
写真右：東京商工会議所墨田支部 清水 竜 氏

SICのレポートをきっかけに東商墨田支部×SICの連携が深化

2024年に50周年を迎えた東京商工会議所墨田支部と墨田区は連携を図り、区内事業者の支援を行ってきました。2025年に発行した本レポートを通じてSICにおける共創の進展を共有したことをきっかけに、セミナー共催などを始動。SICから生まれた新製品を東京商工会議所墨田支部や同支部の会員との共創により社会実装させていくことを見据えて連携を深めています。

活動実績・成果※

※2026年9月末時点

SIC開設から３年間で、122件の共創事例を創出してきました。これらの共創事例のうち、41%に区内ものづくり企業が主体的に関与しており、区外から誘引したスタートアップ等と区内事業者の共創が着実に進んでいます。
SIC開設から当初５年間のゴールとして設定したKGI・KPIの達成に向けて、より多くの区内事業者が共創に関わり、経済効果を獲得できるよう取組を加速させていくとともに、共創を通じて新たな産業創出を図っていきます。

共創から生まれた区内経済効果額

	２年目実績	３年目実績	５年目目標
	約4億円	約22億円	30億円

（前年比：＋18億円）

SICの支援を通じて獲得した新規売上・資金調達等を調査

共創プロジェクト

	２年目実績	３年目実績	５年目目標
共創事例の件数	75件	122件	180件
		（前年比：＋47件）	
区内ものづくり企業の共創関与率	30%	41%	50%
		（前年比：＋11%）	

スタートアップ集積機能

	２年目実績	３年目実績	５年目目標
会員数	581社（者）	749社（者）	700社（者）
		（前年比：＋168社（者））	達成

スタートアップ支援機能

	２年目実績	３年目実績	５年目目標
専門家相談受付数	573件	876件	1,100件
		（前年比：＋303件）	
共創プログラム参画数	延べ77社（者）	延べ166社（者）	150社（者）
		（前年比：＋89社（者））	達成

コミュニティ形成・情報発信機能

	２年目実績	３年目実績	５年目目標
交流事業実施回数	305回	472回	700回
		（前年比：＋167回）	
交流事業参加者数	5,891人	9,085人	13,000人
		（前年比：＋3,194人）	

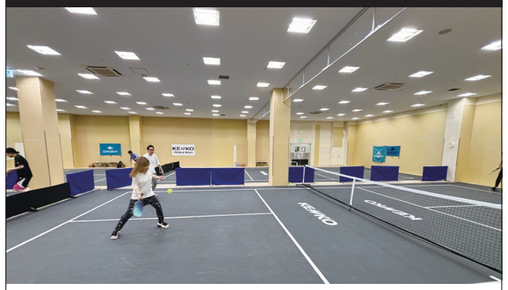
共創プロジェクト 32

開設から3年間で120を超える共創プロジェクトが　企画・立案されました。特に取組が進められている32のプロジェクトの概要を紹介いたします。

32のプロジェクトの取組内容やスキーム図については
こちらのQRコードからご覧いただけます ▶

新製品開発等を通じたものづくり企業の付加価値向上

1 区内ものづくり企業の技術を活用したニュースポーツ製品の開発・社会実装



■プロジェクト概要

BAKUAGEの有するニュースポーツへの知見・ネットワークと区内ものづくり企業であるナガセケンコーの有する技術を掛け合わせ、ピックルボールコートマットを新規開発。製品化・販売を開始し、新規層集客や顧客体験向上を目指す商業施設に社会実装を実現。さらなる展開を目指す

■目指している効果

- ピックルボール環境の増加による運動習慣の定着
- ニュースポーツ製品の開発によるものづくり企業の付加価値向上

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社BAKUAGE
- 区内ものづくり企業：ナガセケンコー株式会社

2 区内ものづくり企業と共同開発するIoTロッカー活用によるフォールディングバイクシェアリングサービスの展開



■プロジェクト概要

SakuraRideとぶんぶくは、フォールディングバイクのシェアリングサービス対応型の車体格納用IoTロッカーを共同開発。世界中の旅人が集まる区内のホステルにロッカーを設置し、フォールディングバイクのシェアリングサービスの有効性検証を実施。将来的にはオリジナルバイク開発を目指す

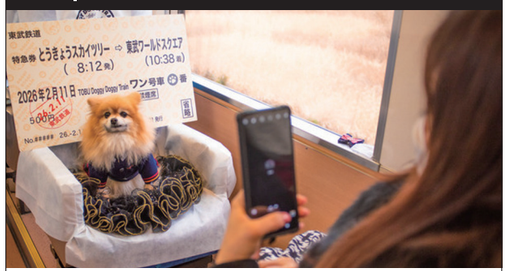
■目指している効果

- フォールディングバイクの普及による墨田区観光客を含む区内回遊性の向上や区の魅力向上

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社SakuraRide
- 区内ものづくり企業：株式会社ぶんぶく

3 ペットフレンドリーな沿線を目指すワンちゃん列車用シートカバーの開発



■プロジェクト概要

東武鉄道はペットフレンドリーな沿線観光地づくりのため、愛犬とケージレスで過ごせるツアーを実施。ケージレス化及び愛犬との旅行体験向上に向け、区内ものづくり企業・小倉メリヤス製造所の技術を活用し、貸切列車・バス内で使用する座席シートカバーや愛犬用衣装を開発

■目指している効果

- ペットフレンドリーな沿線・地域としてブランディング及び賑わいの創出
- ペット製品の開発によるものづくり企業の付加価値向上

［共創メンバー］

- 区内ものづくり企業：株式会社小倉メリヤス製造所
- 区内企業・団体：東武鉄道株式会社

4 大阪・関西万博向けのプロジェクションブースの製作



■プロジェクト概要

大型プロジェクションスクリーンの開発、展示会ブース設計などエンタメに関わる様々な機器開発を行うスタートアップ・シアンが、大阪・関西万博でプロジェクションブースを開発し、イベント空間演出を支援。開発に際しては、サトウ化成がプロジェクター台の天板を製作し、墨田区のネットワークと連携

■目指している効果

- 多様なシーン・場所における没入空間の提供を通じた感動体験の創出
- 大規模イベント等における製作連携によるものづくり企業の認知向上

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社シアン
- 区内ものづくり企業：有限会社サトウ化成

5 プロダクトデザイナー×ものづくり企業の共創による「産業工芸」の創造



■プロジェクト概要

職人の技術と感性を生かし、日々の生産では追求しきれない製法や表現に時間とこだわりを注ぐ。この取組を「産業工芸」と名づけ、現代美術の評価・流通の手法を援用し、文化的価値を確立する。研／togはAILEとNC旋盤による「turn」を、間中木工所とは量産木工技術による産業工芸品を共創している

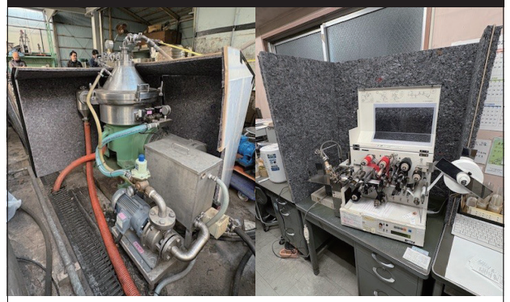
■目指している効果

- 産業工芸市場の創出を通じて、ものづくり企業を取り巻く事業環境を変革し、職人の技と営みを文化として次の世代へ継承する

［共創メンバー］

- スタートアップ：研／tog
- 区内ものづくり企業：株式会社間中木工所、株式会社AILE

6 地域住民と工場の共生を助ける防音プロジェクト



■プロジェクト概要

製造業向けに特化した新規防音プロダクトを開発して工場へ設置工場内外の定量的な音の変化と、周辺住民や工場内で働く従業員の音に対する定性的な意識変化を検証

■目指している効果

- 防音製品を新たに開発・設置し、工場の騒音と近隣地域住民への影響を軽減するとともに、工場内の作業環境改善を図り、地域住民と工場の共生を目指す

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社ピットアパット
- 区内ものづくり企業：株式会社ヨシズミプレス
- 区外企業・団体：株式会社中外

7 eスポーツチーム×ものづくり企業競技用製品・ファングッズの開発



■プロジェクト概要

墨田区初のホームタウンeスポーツチーム「INSOMNIA」を運営するINSは、競技の発展速度に対して環境整備が不十分と捉え、区内ものづくり企業と製品開発に取り組む。サトウ化成とは、高価な競技用キーボード運搬用のアタッシュケース開発を実現し、キップスとはファン向けのファッション製品開発を目指す

■目指している効果

- 墨田区のeスポーツ聖地化による競技の発展・地域活性化
- eスポーツ製品の開発によるものづくり企業の付加価値向上

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社INS
- 区内ものづくり企業：有限会社サトウ化成、キップス株式会社

8 インバウンドで沸くカピバラカフェ×ものづくり企業によるグッズ製作



■プロジェクト概要

C-SPACEが運営する区内にあるカピバラカフェ「cafe capyba」。インバウンドに人気があるグッズの内、Tシャツをキップス、割れやすいカピバラの置物用の梱包ウレタン材をサトウ化成が共創して製作

■目指している効果

- こだわりを持つカフェや飲食店のグッズ人気が高まる中、区内ものづくり企業の技術や知見を活かして、コアなファンの獲得・維持に貢献

［共創メンバー］

- 区内ものづくり企業：キップス株式会社、有限会社サトウ化成
- 区内企業・団体：株式会社C-SPACE

新製品開発等を通じたものづくり企業の付加価値向上

9 ペット共生社会に向けたサステナブル素材×ものづくりのペット製品開発



■プロジェクト概要

appcycleのりんごの残渣を生かしたトレーニングフード、東屋の革小物の製作技術を生かしたトレーニングポーチの開発に取り組む。ペッツオーライが運営するペットユーザー向けアプリを通じて、日常的なしつけ機会に各製品を活用し、「ペットを飼う」から「共に暮らす」への転換と、墨田区のものづくり技術を生かしたペット用製品開発の水平展開を目指す

■目指している効果

- ペット共生社会の実現と墨田区のものづくり技術×サステナブル素材を生かした新たな産業の創出

［共創メンバー］

- スタートアップ：ペッツオーライ株式会社、appcycle株式会社
- 区内ものづくり企業：有限会社東屋

10 区内ものづくり企業とのすみだを体現した防災笛「雫音」の開発



■プロジェクト概要

東商ゴム工業がAtelier Arsが手掛けるブランド「東京下町想身具店」と共創し、区内ものづくり企業の自社技術を生かした曲がって割れない防災笛「雫音」を開発・販売。さらに、廃棄コスメのアップサイクル企業モーンガータと連携し、豊富なカラーバリエーションを実現

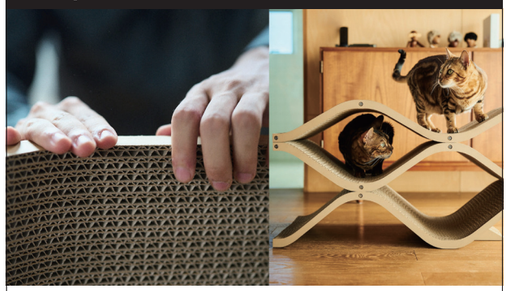
■目指している効果

- 区内ものづくり企業が自ら一般ユーザー向けプロダクトの企画・開発を行うことによる新たな収益源の確立、社内風土の醸成、社員育成機会の確保

［共創メンバー］

- スタートアップ：合同会社Atelier Ars、株式会社モーンガータ
- 区内ものづくり企業：東商ゴム工業株式会社

11 “ものづくりのまち すみだ”における循環型プロダクト量産モデル構築



■プロジェクト概要

「美しい、強い、軽い」を追求したダンボール製デザイン家具を製造するカミカグは、まだ国内で確立されていない積層ダンボールの量産技術化に複数の区内ものづくり企業との共創により挑戦。本取組を通じて、墨田区の紙加工・紙器集積に木工・治具技術を組み合わせる循環型プロダクト量産モデルの構築を目指す

■目指している効果

- 再生紙・積層ダンボールを核とした“循環型プロダクト量産”が可能な「ものづくり産業×サステナブル産業」の創出

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社カミカグ
- 区内ものづくり企業：株式会社間中木工所

12 リサイクルコルクを利用したアップサイクル舗装素材の開発



■プロジェクト概要

創業130年の老舗コルクメーカー・永柳工業が使用済みワイン栓を大規模に回収・再利用する民間・行政・福祉を三位一体に結ぶ循環システムを構築。墨田区公園課と共創し、リサイクルコルクをアップサイクルした新たな舗装材の開発を進め、公共空間への導入を目指す

■目指している効果

- リサイクルコルクのアップサイクルによるものづくり企業の付加価値向上と環境配慮型の社会への寄与

［共創メンバー］

- 区内ものづくり企業：永柳工業株式会社
- 行政：墨田区公園課

DX等を通じた区内産業の基盤強化

13 スタートアップ×地域金融機関×区内ものづくり企業の共創による中小企業のDX推進



■プロジェクト概要

ノーコードツールを活用した中小企業のDXを目指すセラピア、セラピアのサービス導入によりDXを成し遂げさらに他企業のDX支援を新規事業としているバキュームモールド、地域金融機関である東京東信用金庫との連携による地域中小企業のDX促進

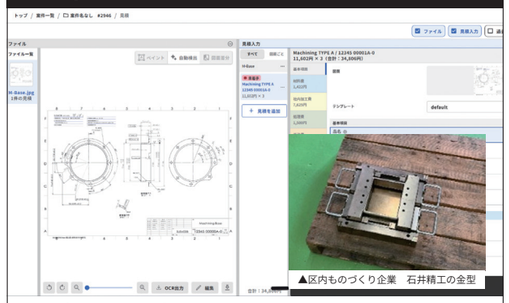
■目指している効果

- 地域金融機関の顧客網を活用した地域中小企業のDX化の促進及びその効果の区内への波及

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社セラピア
- 区内ものづくり企業：バキュームモールド工業株式会社
- 区内企業・団体：東京東信用金庫

14 金型製造業におけるAIを活用した見積業務のDX



■プロジェクト概要

匠技研工業が有するAI見積支援システムを基盤として、金型製造業の石井精工と協議を重ねながら、加工に関する知見をAIに学習させ、金型の初期設計を提案する「金型レコメンド機能」の新規開発を行う。本システムを活用して見積業務フローを再構築し、現場への導入を実施する

■目指している効果

- 見積業務の難易度が高い金型製造業における見積業務のさらなる「適正化」「標準化」「効率化」の実現

［共創メンバー］

- スタートアップ：匠技研工業株式会社
- 区内ものづくり企業：株式会社石井精工

15 設計現場を支える『DRBFMワークシート自動生成AI』の共同開発



■プロジェクト概要

自動車の足回り部品「ボールジョイント」で国内トップシェア※を持つ区内ものづくり企業・ソミック石川が蓄積してきた設計知識・技術知見と、Spark+が培ってきた設計領域における独自のAIアルゴリズムと活用知見を掛け合わせ、設計管理手法（DRBFM）のワークシート作成を支援するAIエージェントを共同開発　（※自社調べ）

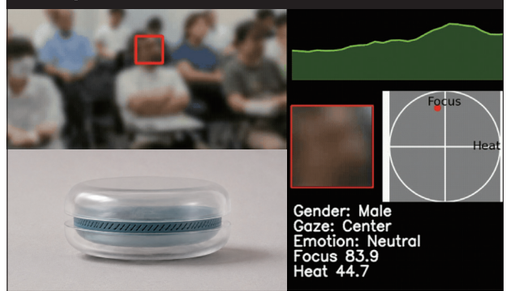
■目指している効果

- 技術伝承の促進　●品質の標準化　●業務負荷の軽減

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社SparkPlus
- 区内ものづくり企業：株式会社ソミック石川

16 人の心理の変化を捉える非言語情報解析AIを活用したプロダクトの開発



■プロジェクト概要

都立高専スピンオフスタートアップ・DJ Insightは接客・セミナーなど場の盛り上がりや集中度を可視化する「TsutaeAI」を、主にSICを活用した実証を通じて製品化。さらに、プロダクトデザインを手掛ける研／Togと共創し、意匠性の高い集音プロダクトを開発し、社会実装を進める

■目指している効果

- 定量化が困難だった「場の空気」や「心の動き」をデータ化することで、コミュニケーションの質的向上を図る

［共創メンバー］

- スタートアップ：株式会社DJ Insight、研／Tog

DX等を通じた区内産業の基盤強化

17 ものづくり技術と出会い、価値を生む共創メタバース「バーチャル墨田」構築



■プロジェクト概要

ブラウザで動かせる世界一軽量なメタバースを開発・提供するスタートアップ・m-Labは、ものづくりの技術・工場・会社の紹介が可能な共創メタバース「バーチャル墨田」を構築し、製造業における新規接点創出を目指す

■目指している効果

- 区内ものづくり企業への回遊、リアル来訪、物販、問い合わせ、商談、採用、共創へつなげるモデルの創出

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社 m-Lab、株式会社UMIAILE
- 区内ものづくり企業：株式会社石井精工、株式会社片岡屏風店、バキュームモールド工業株式会社、株式会社間中木工所

18 ものづくり職人の哲学や姿勢を基にした教育サービス開発・提供



■プロジェクト概要

バキュームモールドが長年培ってきたものづくりや仕事に対する「哲学・姿勢」をもとに、教育サービスを提供するスタートアップ・BYDとの共創により教育サービスを開発し、児童・生徒に対する提供を目指す

■目指している効果

- 教育分野での新規事業開発・提供によるものづくり中小企業の付加価値向上・社会的価値の向上

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社BYD
- 区内ものづくり企業：バキュームモールド工業株式会社

19 区内ものづくり企業の遊休資産を活用したものづくり空間・活動の創出



■プロジェクト概要

区内ものづくり企業が有する空きスペースや区内に存在する空き工場・空き家を活用して、区内ものづくり企業向けのプロダクト展示・販売スペースやものづくり系交流スペースとし、企業の新規収益獲得やものづくりの関係人口創出を実証

■目指している効果

- 遊休資産を活用したものづくり空間・活動の創出による「ものづくりのまち すみだ」としての景観・文化の継承・発展

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社MYROOM
- 区内ものづくり企業：有限会社東屋、キップス株式会社
- 行政：墨田区産業振興課 SUMIDA TECNET LABO

20 eスポーツ領域におけるプレイヤーのパフォーマンス向上



■プロジェクト概要

Xiberlincの脳機能スキル計測プラットフォーム(Alethemy)のeスポーツ選手版の共同開発(集中力や記憶力等の測定)。また、INS主催イベントでの実証実験を通して、マス向けの展開等につなげていく取組を実施

■目指している効果

- 区内スタートアップ同士の共創を通じたeスポーツ選手のパフォーマンス評価と向上支援
- eスポーツ業界の振興や区内への若者流入支援、地域住民の健康増進・人材育成等への貢献

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社INS、株式会社Xiberlinc

社会課題解決を通じた区民生活への還元

21 認知症の予兆検出サービス開発・精度向上による高齢者福祉の充実



■プロジェクト概要

IGSAと東京都健康長寿医療センター研究所が共同開発した、発話から認知機能の変化を早期・低負担で捉えるAIにより「はなしてね」を開発。高齢者福祉課と連携し、区民へ無償提供し、利用状況と脳と心の健康を把握するダッシュボードを提供。ルネサンスとは測定結果に応じた提案から運動配信へつなぐ連携を実施。社会実装を目指す

■目指している効果

- 区民自ら脳と心の健康を確認し、認知症になる前の変化に気づき行動でき、介護予防の効果検証等にも活用

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社IGSA
- 行政：墨田区高齢者福祉課
- 区内企業・団体：株式会社ルネサンス
- 区外企業・団体：東京都健康長寿医療センター

22 光と振動で“呼吸を取り戻す”ポケットデバイス「SuuHal」の開発



■プロジェクト概要

不安・緊張に瞬間的に介入できるセルフケアソリューションとして、HALeRAが開発するポケットデバイス「SuuHal」。デバイスの筐体製造について、「SUMIDA TECNET LABO (STL)」と共創し、木素材の提案と試作を実施。今後は、製品の販売・社会実装を目指す

■目指している効果

- 不安・緊張に耐えるユーザーの気持ちの安定化に資するソリューションを通じて、セルフケア社会を推進

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社HALeRA
- 行政：墨田区産業振興課 SUMIDA TECNET LABO

23 区内ものづくり企業との共創を見据えたNPO法人と連携したパラスポーツの普及



■プロジェクト概要

福祉領域での活動経験を有するデザイナーによるパラスポーツ用品の開発と、NPO法人との連携による支援を通じた競技環境づくり

■目指している効果

- 挑戦を続ける人たちを技術やデザイン、知見で支えつつ障害者スポーツの可能性を広げ、さらに次世代の選手が挑戦を続けやすい環境の整備

[共創メンバー]

- スタートアップ：LITTLE BY LITTLE
- 区外企業・団体：NPO法人 ParaNori

24 区内銭湯「電気湯」における子どもたちが製作した写真集の展示連携



■プロジェクト概要

SICで開催する子ども向けプログラムの一環として、墨田区内で撮影された約400枚の写真をもとに、子どもたちがコンセプト設定から製本まで行った写真集を製作。写真素材は墨田区等からも提供し、SICのつなぎこみで、子どもたちの写真集を墨田区の銭湯「電気湯」にて展示する形で連携を実施

■目指している効果

- 子どもたちの創造力・郷土愛醸成
- 子どもたちが地域の商店・企業へ触れる機会の創出

[共創メンバー]

- 区内企業・団体：電気湯（株式会社エイトカンパニー）
- 行政：墨田区広報広聴担当

社会課題解決を通じた区民生活への還元

25 河川の観測・調査が可能な自律操船の小型無人ボートの開発・検証



■プロジェクト概要
小型無人ボートUMIAILE ASVの河川での活用に向けた区内ものづくり企業との開発改良や、河川地形図作成による浚渫の効率化・河川の臭気調査・河川内のゴミ回収など、河川における課題解決を目指した実証実験を実施している

■目指している効果
- 河川での活用を目指して開発改良をした小型無人ボートの自律航行によるゴミや臭気といった河川における課題解決

[共創メンバー]
- スタートアップ：株式会社UMIAILE
- 区内ものづくり企業：株式会社浜野製作所
- 行政：墨田区都市整備課

26 都市部における雨水の活用による資源の再利用の促進・水インフラの実用化



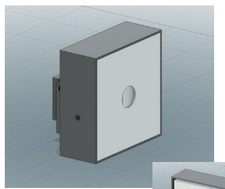
■プロジェクト概要
小規模分散型水循環システムを接続したトレーラーハウス（iU敷地内設置）でWOTA社員が生活し、雨水を活用した再生水利用における水量の充足度を検証。iU学生とのワークショップを実施し、水再生循環システムのユーザビリティも検証し、実証結果を踏まえてシステム量産化開発を加速させている。（令和７年に家庭用水循環システム「WOTA Unit（ウォータ・ユニット）」を上市）

■目指している効果
- 「小規模分散型」の水インフラの整備による地域の水問題の解決

※本プロジェクトは令和４年度プロトタイプ実証実験支援事業にて採択。概要は「令和４年度採択実証成果詳細」より抜粋

[共創メンバー]
- スタートアップ：WOTA株式会社
- 区内大学：iU 情報経営イノベーション専門職大学

27 IoT・ものづくり技術を活用した「スマートタクシーポール」開発



開発中カメラ筐体（案）

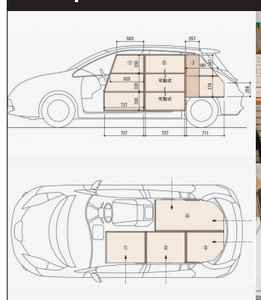


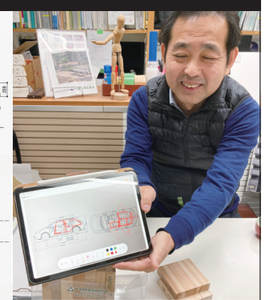
■プロジェクト概要
タクシー乗り場の需給ギャップ解消に向けたIoT・ものづくり技術を活用した「スマートタクシーポール」をIoT企業であるピクスーとものづくり企業である協栄医科工業が共同開発を目指す

■目指している効果
- タクシー運転手へ乗り場情報をリアルタイムに共有し、タクシー乗り場での需給ギャップの解消
- タクシー乗り場を起点にスマートで魅力ある街づくりに寄与

[共創メンバー]
- スタートアップ：ピクスー株式会社
- 区内ものづくり企業：株式会社協栄医科工業

28 マンションの空き駐車場を活用した可動式トランクルームの開発・実装





■プロジェクト概要
日景氏は、マンションの空き駐車場問題を中古EV車両を活用した可動式トランクルームで解決する事業を検討。SICの「SPARK」を通じて出会った間中木工所との共創により、車両内の意匠性・収容率を高める木製枠棚の開発に取り組む

■目指している効果
- 収納スペース不足に悩む都心マンションの問題を解決し、好きな家（まち）に住み続けられる社会を形成

[共創メンバー]
- スタートアップ：日景 明彦 氏
- 区内ものづくり企業：株式会社間中木工所

29 「土に還る服」を活用した保育園における新たな学びの機会の提供



■プロジェクト概要
「土に還る服」によって衣類のゼロウェストを実現するエコシステムの構築を目指すSyncs.Designは、区内の保育園と連携して、子どもたちが服ができてから「土に還る」までを体感する学びの機会を提供。今後は、区内ものづくり企業とともに、付加価値の高いゼロウェスト製品の開発を目指す

■目指している効果
- 「土に還る服」を通じた子どもや保護者のモノ・環境への意識向上
- 区内の繊維業・企業の競争力強化

[共創メンバー]
- スタートアップ：Syncs.Design株式会社
- 行政：墨田区子ども施設課

30 オリジナル子ども靴の開発と子ども靴のすみだ循環モデルの実現



■プロジェクト概要
SlowFastが東武鉄道のIPを活用した子ども靴の製造・販売、カミカグ・五十嵐製箱と共に靴の回収ボックスを製造し、回収した靴のリユース事業を実施することで子ども靴の循環型モデルの実現を目指す

■目指している効果
- 靴の製造・販売・回収・レンタルでのリユースまでを一気通貫で行い、子ども靴の循環モデルを確立して子ども靴のエシカル消費を推進

[共創メンバー]
- スタートアップ：株式会社SlowFast、株式会社カミカグ
- 区内ものづくり企業：五十嵐製箱株式会社
- 区内企業・団体：東武鉄道株式会社

31 デザイン思考を活用した探究教育ツールの開発と全国への水平展開



■プロジェクト概要
理論と実践のバランスが取れた「うちゅう型人材」輩出を目指す教育系スタートアップ・うちゅうは、プロトタイプ実証実験支援事業における区の指導室との共創を通じて、教育現場で活用可能なデザイン思考を活用した探究教育ツールを開発。経済産業省の「未来の教室」を通じて、全国の教育現場へ水平展開し、社会実装を推進

■目指している効果
- 探求的な学びや企業との対話など実践的な学びをもとに、子どもたちや高校生たちが未来を創造する力を育む

[共創メンバー]
- スタートアップ：株式会社うちゅう
- 行政：墨田区指導室

32 墨田区等の企業の強み・特性を生かした探究学習プログラムの開発

理科×探究学習プログラム

BYD × Kao



■プロジェクト概要
BYDが探究学習のノウハウを生かして教材制作及び授業実施を支援し、花王が国内トップクラスの様々な科学のエッセンスを提供することで、中高生向けの理科探究プログラムを展開

■目指している効果
- 理科をより好きになり、理科に夢中になる中高生（理系人材）の輩出

プログラミング×探究学習プログラム

BYD × DJ Insight



■プロジェクト概要
「探究心×技術力＝イノベーション」
DJ InsightはBYDと共同でプログラミング/生成AIと探究学習を融合させた次世代の教育プログラムを開発

■目指している効果
- 自ら課題を発見する探究能力と課題を解決するアイデアを形にする能力を育てることに焦点を当て、技術と探究心を兼ね備えた理工分野の将来におけるイノベーションの担い手輩出

[共創メンバー]
- スタートアップ：株式会社BYD、株式会社DJ Insight
- 区内企業・団体：花王株式会社

共創ストーリー

SICならではの共創ストーリーを有する
プロジェクトをご紹介します

Story 1

スタートアップ × 区内ものづくり企業

すみだの技術から生まれた
ピックルボール
コートマットの社会実装



写真左：株式会社BAKUAGE 渡邊 史郎 氏
写真中央：ナガセケンコー株式会社 小坪 政寿 氏　写真右：ナガセケンコー株式会社 椎名 茂人 氏

すみだの技術から生まれたプロダクトが3年間の伴走支援を経て社会実装へ

あらゆる人が楽しめるニュースポーツによって自己実現できる社会を目指すスタートアップ・BAKUAGEと、ソフトテニスボール・バドミントンコート等のスポーツ用品を製造する区内ものづくり企業であるナガセケンコーは、令和5年度よりピックルボールコートマット開発に取り組んできました。およそ3年間の開発改良・実証期間を経て、ついに令和7年度に社会実装を実現しました。

ナガセケンコー・椎名氏、小坪氏は「品質の高いコートマットに仕上げるためには、BAKUAGEが有する現役選手のネットワークを生かした使用感の検証や、SICが提供したものづくり意見交換会の機会が非常に有効だった」と声を揃えます。BAKUAGE・渡邊氏も「開発にとどまらず、社会実装まで至ったことが本当に嬉しい」と目を輝かせました。

社会実装を決定づけたのは、SICの提案・支援を通じた販売促進会の機会。即日プロダクトの購入が決定し、ショッピングモールにコートが導入されています。

椎名氏・小坪氏ともに「本製品は社内での期待が非常に大きく、製造ラインを増設することが決まっています。また、SICでの経験をもとに販売促進会を定期的に実施しており、多数の問合せを頂戴しています」と機運の高まりを語りました。

プロダクトのさらなる改良とともにすみだをニュースポーツ用品の聖地へ

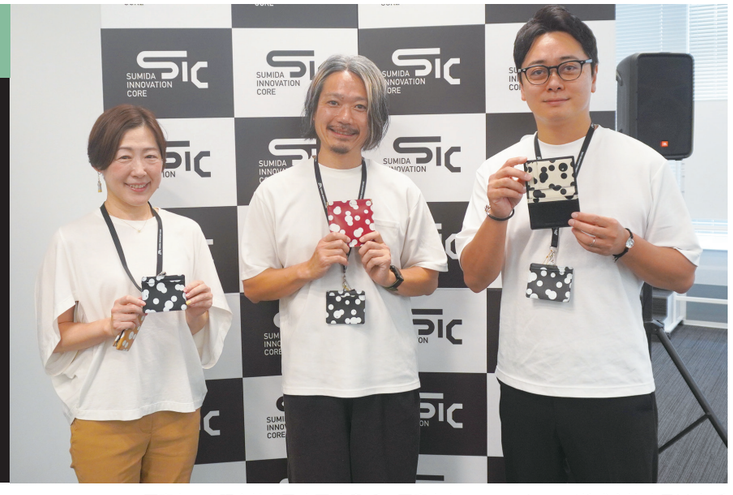
小坪氏は「現在のコートマットは屋内用だが、SICで出会った区内ものづくり企業と屋外用の開発に取り組んでいます。すみだの技術を掛け合わせることで、より社会で広く活用される品質の高い製品をお届けしたいです」と力強く語ります。渡邊氏は「本製品にとどまらず、様々なニュースポーツ用品へと製品開発を広げたい」と意気込みます。椎名氏も「ピックルボールコートマットの次の開発も、ぜひBAKUAGEと取り組みたい」と、これまで築いてきた高い信頼関係を感じさせる言葉で呼応しました。全員がすみだをニュースポーツ用品の聖地とする未来を見据えて、さらに社会実装を進めていきます。

◀株式会社BAKUAGE　◀ナガセケンコー株式会社

Story 2

スタートアップ × スタートアップ × 区内ものづくり企業

ペット共生社会に向けた
サステナブル素材×
ものづくりのペット製品開発



写真左：有限会社東屋 木戸 麻貴 氏　写真中央：ペッツオーライ株式会社 小早川 斉 氏
写真右：appcycle株式会社 藤巻 圭 氏

SICアワードをきっかけに始まったペット共生社会×ものづくりの共創

りんごの聖地である青森発のスタートアップ・appcycleと、創業100年を超える両国の革小物製品専門店・東屋は、りんごの残渣を活用したエシカルレザー製品開発の共創により「SICアワード2025」最優秀賞を受賞しました。本アワードの特典であるマッチングイベントを通じて、ペットライフを豊かにするサービスを展開するペッツオーライと出会い、ペット用フード・トレーニングポーチ開発の共創に向けた検討が始まりました。

アットホームな関係性を軸とした人と人とのつながりが共創の土台

ペッツオーライ・小早川氏は、ペットとの暮らしの中で感じていた「トレーニングをもっと自然に、前向きに続けられる形にしたい」という想いに、appcycle・東屋との共創がフィットしたと話します。環境にやさしい素材を活かしたフードやトレーニングポーチの構想は、想いを形にする新たな価値につながる可能性を見出しています。

また、東屋・木戸氏とappcycle・藤巻氏は「共創を始める、続けるためには、また会いたいと思ってもらうことが大切」と話します。ビジネスの視点だけではなく、アットホームな雰囲気で会話ができる関係性を軸とした人と人とのつながりを築けているからこそ、このチームでの前向きな共創が進んでいるとのことです。

今後はすみだ発のブランドづくり・ペットものづくり産業化を見据える

現在は、りんご由来製品はappcycle、革小物製品は東屋、ペット領域での企画・事業化はペッツオーライとお互いの専門性を活かしながら、まずはファーストプロダクトを形にする試作を進めています。

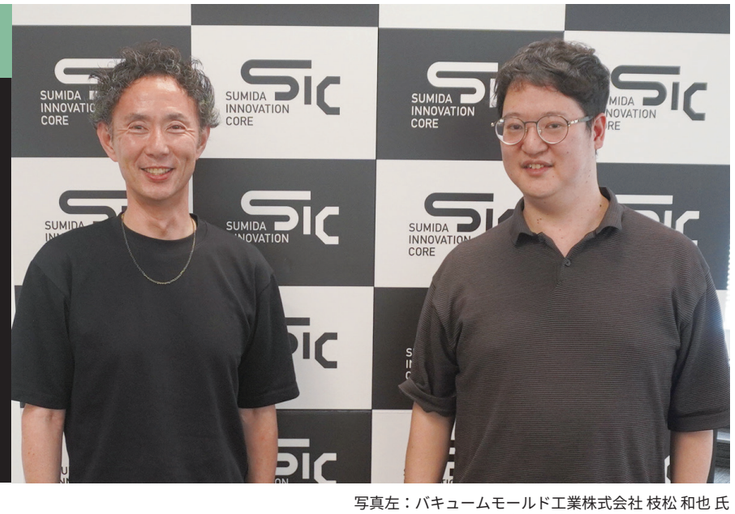
その先には、すみだのものづくりの力・ネットワークを生かしたブランドへ育てていく将来像があります。ペットに関わる多様な人や企業が集まる街としてのすみだの可能性を捉えながら、ペットものづくり産業というすみだ発の新しい価値づくりに挑戦していきます。

◀ペッツオーライ株式会社　◀有限会社東屋　◀appcycle株式会社

Story 3

区内ものづくり企業 × スタートアップ

ものづくり中小企業の社会的価値向上に向けた教育コンテンツの実施



写真左：バキュームモールド工業株式会社 枝松 和也 氏
写真右：株式会社 BYD 井上 創太 氏

「SPARK」をきっかけに ものづくり企業×教育系スタートアップの共創が始動

創業65年を越えるバキュームモールド工業は、プラスチック真空成形用金型や抜型の設計・製作に強みを有する区内ものづくり企業です。SICのアクセラレーションプログラム「SPARK」に参加し、ものづくり企業の社会的価値向上につながる新たな事業として、長年蓄積してきた自社知見を教育コンテンツに昇華する教育事業開発を決めました。さらに「SPARK」を通じて、教育機関の課題を希望に変える伴走型教育コンサルティングを提供するスタートアップ・BYDと出会いました。

強みをつなぐ密なコミュニケーションから創造する教育コンテンツ

バキュームモールド工業・枝松氏は「共創はお互いを尊敬し合う姿勢が重要。そのためには、双方が情報を惜しみなく共有し、密なコミュニケーションを通じて相手の強みを理解することが欠かせない」と話します。

BYD・井上氏も考えに共感し「バキュームモールドの強み・魅力はもちろんのこと、同社の北澤社長や枝松氏の人柄や考えを最大限に生かしたい」と話し、日々、密なコミュニケーションを重ねながら、相互理解にもとづく連携を進めています。現在は、生徒や学生の興味・関心を喚起し、ものづくりへの理解を深めて、社会的価値の向上につなげる授業・教育コンテンツの開発を進めています。

ものづくり企業が集積するすみだの魅力・価値を次世代に発信

枝松氏は「すみだが“ものづくりのまち”と呼ばれる町工場の集積地であることは、段々と知られなくなっているように感じる。ものづくりは、必ずしも学生の興味・関心に合致するテーマでは無いかもしれないが、だからこそ意義を感じている。まずは自社での取組を進めていくが、来年以降は様々なすみだのものづくり企業と連携していきたい」と語りました。

すみだのものづくり企業全体で、ものづくりが集積するすみだの魅力・価値を次世代に発信する教育事業化を目指して、取組を進めていきます。

◀バキュームモールド工業株式会社　◀株式会社BYD

Story 4

スタートアップ × 行政

認知症予兆検出サービスの社会実装



写真左：株式会社IGSA 松島 創一郎 氏
写真右：墨田区高齢者福祉課 田部谷 友基 氏

プロトタイプの実証実験フェーズから社会実装フェーズへのステップアップ

スマホで利用できる脳と心の健康習慣アプリ「はなしてね」を開発するスタートアップ・IGSAと、認知症施策の推進を担う区の高齢者福祉課は、プロトタイプ実証実験支援事業を通じて共創を開始しました。開始から３年が経過した現在、実証実験フェーズで終わらせることなく、区民の生活の質の向上につなげるべく社会実装フェーズへとステップアップして取組を続けています。

「行政現場・住民のニーズが起点」双方の目線が揃った社会実装の推進

高齢者福祉課・田部谷氏は、日々の業務で感じている「さらに区民の皆様に届く施策を行いたい」という想いに、IGSAのサービスがフィットしたと話します。これまでの施策では届きづらかった区民へアプローチできる新たな施策としての「はなしてね」の活用は、「区の認知症施策の推進にとって価値がある」と真剣な眼差しでした。

また、IGSA・松島氏も「行政現場・住民のニーズを直接聞きながら、サービスを開発改良できる貴重な機会」と話します。田部谷氏も「IGSAは現状の自社サービス導入ありきではなく、行政現場・住民の意向やニーズを踏まえて、サービスの改良を提案いただける」と、双方の目線が揃った状態での社会実装の推進に手応えを感じています。

「はなしてね」によるEBPMを通じた区民のためとなる認知症施策推進を目指す

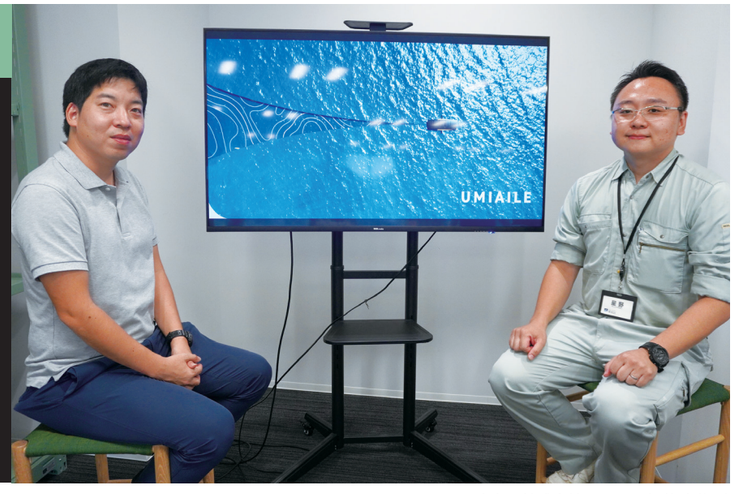
現在、高齢者福祉課では「はなしてね」を利用する区民の脳の健康に関する情報を把握・分析するサービスを試験導入しています。これまでは感覚で捉えていた事柄を客観的にデータで捉えるEBPM（証拠に基づく政策立案）の推進によって、田部谷氏は「多くの区民の皆様がより良い生活を送れるような認知症施策の推進のステップアップを目指す」と期待感を語ります。「はなしてね」が、区民の生活の質の向上につながるような社会実装の実現が近づいてきています。

◀株式会社IGSA　◀はなしてね（アプリ）　◀墨田区高齢者福祉課

Story 5

スタートアップ × 行政

自律航行型
小型無人ボートによる
河川の観測・調査の実証実験



写真左：株式会社UMIAILE 板井 亮佑 氏
写真右：墨田区都市整備課 星野 真也 氏

海だけでなく河川における課題の解決を目指す実証実験

自律航行型小型無人ボート（ASV）を開発し「海の見える化」を目指す区内スタートアップ・UMIAILEと、河川の維持・管理を担う都市整備課は、プロトタイプ実証実験支援事業を通じて共創を開始しました。海で培った最先端の技術を応用し、河川における課題解決を目指した実証実験に取り組んでいます。都市整備課・星野氏は「河川の調査には、ダイバーなど多くのマンパワーが必要となるが、ASVにより省人化・効率化ができる」と期待を寄せています。

実証から見えたリアルなニーズ。仮説を柔軟に変え、新たに臭気調査の実証を実施

実証実験は、当初想定していた「水質調査」から、現場のリアルなニーズに即した形へと柔軟に進化しました。UMIAILE・板井氏は「仮説が正しいとは限らない。実証を重ねる中で水質調査から住民の生活に直結する臭気の調査へと実証内容を変え、試行錯誤を繰り返す貴重な経験ができた」と振り返ります。

「素うどん」のような汎用性で、墨田区から全国の河川へと広がる未来を目指して

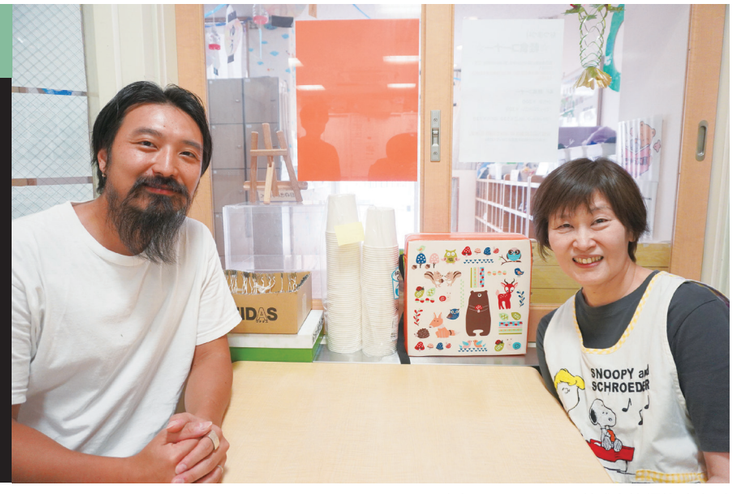
星野氏は「河川のゴミ回収や臭気調査など複数の役割を１台で実施できるのが画期的」とUMIAILEの強みを語ります。板井氏もこれに共感し、自社のASVをユニークに表現します。「僕らの商品は『素うどん』だと社員に言っている。ベースとなる機体に、お客様の要望に合わせてトッピング（センサーやソナー等）を自由に搭載し、様々なニーズに対応できる機体を目指している」。この高い汎用性を強みに、海洋と河川の双方で更なるビジネスチャンスを見据えています。「本社のある墨田区で、ものづくり企業の協力を得ながら、テストを繰り返せる環境は本当にありがたい」と感謝を語る板井氏。SICと密に打ち合わせを重ね、必要な協力先へつないだ伴走支援の手厚さを実感しています。「個社だけでは難しかった。恩返しができるよう、墨田区、そして社会の役に立つ製品を提供したい」と熱く語る眼差しからは、社会実装へと踏み出す確固たる決意が感じられました。

◀株式会社UMIAILE　◀墨田区都市整備課

Story 6

スタートアップ × 区内保育園

服の一生を通じて
命の循環を体験する
教育プログラムの社会実装



写真左：Syncs.Design株式会社 澤柳 直志 氏
写真右：社会福祉法人 宝樹会（本所たから保育園）木内 明美 氏

園長先生の集いをきっかけに始まった共創

「土に還す」までをデザインするファッションブランドのSyncs.Designは、プロトタイプ実証実験支援事業の取組で、服の一生を通じて命の循環についての理解や環境意識を醸成し、探求心の向上を図る教育事業の実装を区内保育園で行いました。本所たから保育園は、園長会でのSyncs.Design・澤柳氏の説明をきっかけに本プログラムへ参加しました。園長・木内氏は「園として食育に力を入れる中で、作物を育てるだけでなく、子どもたちと一緒に学びながら取り組める点に魅力を感じた」と話します。

子どもたちとともに、保育士も新たな学びが得られるプログラム

澤柳氏は「子どもたちに、どのように服の循環の仕組みを伝えるかを考え抜いた。プログラムを通すと、子どもたちが葉脈を血管に例えたり、『ぐるぐる』という言葉で循環を表現したりするなど、本質的な理解が深まっている様子がうかがえた」と、子どもたちの確かな変化に手応えを感じたと語ります。

木内氏も「服の素材について子どもたちから質問があったり、土の中の虫への抵抗感が減ってきているなど確かな変化が見えた。目では見えない小さな世界があることを、子どもたち自身が理解し始めている」と話します。さらに「都会育ちで土に触れてこなかった保育士にも非常に学びになっている」と保育現場への効果も感じています。

子どもの成長とともに学びを複数年で育て、その先で地域全体への広がりを目指す

澤柳氏は「まずは地に足をつけて、区内でプログラムを実践する園の輪を広げたい。特に、子どもたちの成長にあわせた複数年に渡るプランの提供が大切である」と展望を語ります。木内氏も「１年目の実証を経て、２年目も継続した理由には、より長期間で園児の学びを十分に深めたかった」と賛同します。今後の展開として、複数の園が交流して共同で農作業を体験するプログラムや、全国の保育園で和綿を育て服を作る構想も描いています。区内外の子どもたちに循環を広げていく、さらなる社会実装が期待されます。

◀Syncs.Design株式会社　◀本所たから保育園

コラム

東京商工会議所墨田支部×SIC・共創の軌跡

すみだに集積する企業×スタートアップの共創で社会実装を推進「新たな市場の創造へ」

東京商工会議所墨田支部×SICの力で 開発から流通まで連携を



東京商工会議所墨田支部
会長 老田 勝 氏

創業100年を超える「製造部門を持つ商社」墨東化成工業株式会社の代表取締役社長。2023年より、東京商工会議所の第6代墨田支部会長に就任。

――皆様の事業内容と注力している取組を教えてください

東京商工会議所墨田支部・老田氏：東京商工会議所墨田支部の会員企業向けの経営支援を行っています。具体的には、相談員による経営改革支援や資金調達支援、第二創業支援等を実施しています。また、会員企業の声を束ね、行政への要望活動なども行っています。

UMIAILE・板井氏：「海の見える化」をコンセプトに掲げ、海底地殻変動を観測する水上ASVの開発・提供に取り組んでいます。低頻度・高コストな有人観測を無人化することで、高頻度・低コストな観測にシフトさせ、より精緻かつ安全な地震予測・災害時の状況観測を実現できる世界を目指しています。海で培った技術の河川への転用を見据えて、墨田区の河川で水上ASVを走らせて技術実証をしています。

Syncs.Design・澤柳氏：「めぐる、服」をコンセプトに掲げ、循環型の服を“つくる”から“かえす”まで取り組むファッションブランドを運営しています。現在は、自社製品の「土に還る服」を使った「ふくのいっしょう」という体験型環境教育プログラムを開発し、区内の保育園と一緒に実証実験に取り組んでいます。

――東京商工会議所墨田支部×SICの連携可能性をどのように感じていますか

老田氏：SICには、新たなアイデア・技術を有するスタートアップが集まっています。東京商工会議所墨田支部は、製造業から商業まで幅広い会員企業の方々がいますので、製品の設計・開発から社会実装する販売・流通のフェーズまで、SICと連携して取り組める可能性が十分にあります。UMIAILE・Syncs.Design両社の取組・事業フェーズをお伺いし、まさにすみだに集積する企業・産業の特徴と合致していると感じました。

板井氏：創業初期スタートアップの成長曲線と、すみだに集積する産業の力はフィットしています。現在は、ものづくり企業とともに高頻度でプロトタイプ開発と実証実験を進めていますが、社会実装フェーズに進む中では流通の側面での連携が考えられます。

老田氏：開発パートナーと議論をしながら、高頻度で開発・実証実験を重ねる「プロトタイプ」の考え方が何よりも重要です。すみだの中小企業の皆様と共創する際は、完成された製品図面を提示するところからではなく、「スタートアップとして成し遂げたいこと、自社の新規性・独自性」という想いと技術を語るところからスタートする方が、より心に響き、信頼関係の構築につながり、取組は格段に加速していくでしょう。

澤柳氏：ファッション・アパレル業界に身を置く立場として、その考え方に共感します。経済合理性の視点のみでは無駄と判断されてしまうことにも取り組んできました。現在、その取組がカタチになったのは、製品の裏側にある想いやストーリーに共感していただける開発パートナー企業やユーザーの皆様がいたからこそだと感じています。



社会課題解決への想い・取組が 新たな市場・ビジネスとなる

――３周年を迎え、SICから生まれた共創は社会実装のフェーズへと進展してきました

老田氏：想いと技術が重要であることは間違いありませんが、社会実装を見据えた際には、ビジネスとしての実現性・成長可能性を見極める必要があります。スタートアップと新たな挑戦に取り組むすみだの中小企業にとっては、既存の生産工程や商流を止めて、投資としてリスクを背負うことにもなります。そのため、想いをカタチにしたものが「しっかり売れるか」を、スタートアップの皆様には語っていただきたいです。

澤柳氏：ファッション・アパレル業界では、長らく大量生産・大量消費が慣行でした。一方で大量発注・大量廃棄の現実もあり、共創パートナーには「これだけ売れます」というビジネス視点と社会課題解決への想いを両輪で語ることを大事にしています。

老田氏：しっかり売れることと、スタートアップとして実現したい社会は、両立しうるものだと考えています。目を背けてはいけない社会に存在する課題を捉え、その課題解決への想いを語り、その想いに対する人々の共感・機運が高まることで、新たな市場を生むことにつながります。すみだに集積する企業にとって、その新たな市場こそがチャンスなのです。



社会実装フェーズに進むスタートアップ２社と老田会長との意見交換の様子（共創の詳細は、P.25・26の共創ストーリー参照）。

写真左：Syncs.Design株式会社
代表取締役 澤柳 直志 氏
写真右：株式会社UMIAILE
代表取締役CEO 板井 亮佑 氏

双方の会員企業同士がつながり 社会実装に向かう共創の増加へ

板井氏：我々はプロトタイプ開発改良・実証の段階ですが、必ず社会実装を成し遂げるために、現段階から開発パートナー企業との議論のみならず、市場・ターゲットとなりうるユーザーの皆様との対話を重ねています。現在は政府系の市場開拓を進めていますが、すみだに集積する企業の皆様とともにBtoCの市場にも広げていきたいです。

澤柳氏：我々は収益化を実現するに至りましたが、さらなるスケールを志し、海外市場への展開を目指しています。一方で、スタートアップ単体ではマーケティングにも限界がありますので、すみだに集積する企業の皆様と単なる受発注の関係ではなく、共創パートナーとして信頼関係を築き、ともに市場を広げていきたいです。

老田氏：スタートアップの皆様の取組は、社会的意義が非常に大きいです。だからこそ、開発や実証実験で終わらずに社会実装を成し遂げ、社会に大きな影響を生んでいただきたい。そのために、東京商工会議所墨田支部とSICが連携し、双方の会員企業同士をつなげて、社会実装に向かう共創を広げていきましょう。このすみだに集積する企業×スタートアップの座組であれば、もし市場が無い領域だとしても、一緒に新たな市場を創造することもできるはずです。ともに社会実装を進めていきましょう。

墨田区産業共創施設
SUMIDA INNOVATION CORE

東京都墨田区錦糸4-17-1
ヒューリック錦糸町コラボツリー４階
TEL：03-5637-7667

メールアドレス：info@sic-sumida.net
ホームページ：https://sic-sumida.net

墨田区産業観光部産業振興課
令和８年11月発行